

文学YOU歩道

～中部の舞台を訪ねて～

★38

岐阜県高山市



ナイロンザイル事件の舞台になった前穂高岳東壁—澤田栄介さん提供

井上靖「氷壁」

「私にとっては生涯の事件であった。美しさにすっかり魅せられてしまった。1956年秋、親しい仲間らと一緒に北アルプスの穂高岳(岐阜・長野県境)に初めて登った井

上靖(1907~91年)は、大いに感動した胸の内を作った。主人公は登山家の魚津恭一で、自伝でこう明かしている。

興奮冷めやらぬうちに、仲間の一人から「ナイロン・ザイル事件」と題する報告書を受け取った。55年正月に三重

県岩稜会の学生3人が前穂高

岳東壁をアタック中、ザイル

が切れ、1人が墜落死した。

当時、麻ザイルより強いとい

われたナイロンザイルが簡単

に切れたことに對し、登山家

の間に愛が芽生える。それを

確かめるため岐阜県側から穂

高岳を目指し、妹のつと上高

地へ向かう途中、落石で命を

落としてしまう……。

約9カ月にわたる連載中、

岩場に挑んでいる最中、ナイ

ロンザイルが切れ、友を失

う。切断の原因を巡り、いろ

んな憶測が飛び交って苦境に

立たされる中、亡き友の妹と

の間に愛が芽生える。それを

解明を願っていた当事者との

間で思いにすれが生じてい

た。とりわけ、亡くなった学

生の兄で、報告書をまとめた

故石岡繁雄さん〔元鈴鹿高専

教授〕60年に88歳で死去)は、

井上は目を通しても、すぐ小説

の材料になる感じ、東京の

自宅で関係者らと会って熱心

に話を聞いた。登山小説「氷

壁」の新聞連載がスタートす

るのは、その数カ月後のこと

だ。

主人公は登山家の魚津恭一

大。親友2人で前穂高岳の

岩場に挑んでいる最中、ナイ

ロンザイルが切れ、友を失

う。切断の原因を巡り、いろ

んな憶測が飛び交って苦境に

立たされる中、亡き友の妹と

の間に愛が芽生える。それを

解明を願っていた当事者との

間で思いにすれが生じてい

た。とりわけ、亡くなった学

生の兄で、報告書をまとめた

故石岡繁雄さん〔元鈴鹿高専

教授〕60年に88歳で死去)は、

井上は目を通しても、すぐ小説

の材料になる感じ、東京の

自宅で関係者らと会って熱心

に話を聞いた。登山小説「氷

壁」の新聞連載がスタートす

るのは、その数カ月後のこと

だ。

主人公は登山家の魚津恭一

大。親友2人で前穂高岳の

岩場に挑んでいる最中、ナイ

ロンザイルが切れ、友を失

う。切断の原因を巡り、いろ

んな憶測が飛び交って苦境に

立たされる中、亡き友の妹と

の間に愛が芽生える。それを

解明を願っていた当事者との

間で思いにすれが生じてい

た。とりわけ、亡くなった学

生の兄で、報告書をまとめた

故石岡繁雄さん〔元鈴鹿高専

教授〕60年に88歳で死去)は、

井上は目を通しても、すぐ小説

の材料になる感じ、東京の

自宅で関係者らと会って熱心

に話を聞いた。登山小説「氷

壁」の新聞連載がスタートす

るのは、その数カ月後のこと

だ。

主人公は登山家の魚津恭一

大。親友2人で前穂高岳の

岩場に挑んでいる最中、ナイ

ロンザイルが切れ、友を失

う。切断の原因を巡り、いろ

んな憶測が飛び交って苦境に

立たされる中、亡き友の妹と

の間に愛が芽生える。それを

解明を願っていた当事者との

間で思いにすれが生じてい

た。とりわけ、亡くなった学

生の兄で、報告書をまとめた

故石岡繁雄さん〔元鈴鹿高専

教授〕60年に88歳で死去)は、

井上は目を通しても、すぐ小説

の材料になる感じ、東京の

自宅で関係者らと会って熱心

に話を聞いた。登山小説「氷

壁」の新聞連載がスタートす

るのは、その数カ月後のこと

だ。

主人公は登山家の魚津恭一

大。親友2人で前穂高岳の

岩場に挑んでいる最中、ナイ

ロンザイルが切れ、友を失

う。切断の原因を巡り、いろ

んな憶測が飛び交って苦境に

立たされる中、亡き友の妹と

の間に愛が芽生える。それを

解明を願っていた当事者との

間で思いにすれが生じてい

た。とりわけ、亡くなった学

生の兄で、報告書をまとめた

故石岡繁雄さん〔元鈴鹿高専

教授〕60年に88歳で死去)は、

井上は目を通しても、すぐ小説

の材料になる感じ、東京の

自宅で関係者らと会って熱心

に話を聞いた。登山小説「氷

壁」の新聞連載がスタートす

るのは、その数カ月後のこと

だ。

主人公は登山家の魚津恭一

大。親友2人で前穂高岳の

岩場に挑んでいる最中、ナイ

ロンザイルが切れ、友を失

う。切断の原因を巡り、いろ

んな憶測が飛び交って苦境に

立たされる中、亡き友の妹と

の間に愛が芽生える。それを

解明を願っていた当事者との

間で思いにすれが生じてい

た。とりわけ、亡くなった学

生の兄で、報告書をまとめた

故石岡繁雄さん〔元鈴鹿高専

教授〕60年に88歳で死去)は、

井上は目を通しても、すぐ小説

の材料になる感じ、東京の

自宅で関係者らと会って熱心

に話を聞いた。登山小説「氷

壁」の新聞連載がスタートす

るのは、その数カ月後のこと

だ。

主人公は登山家の魚津恭一

大。親友2人で前穂高岳の

岩場に挑んでいる最中、ナイ

ロンザイルが切れ、友を失

う。切断の原因を巡り、いろ

んな憶測が飛び交って苦境に

立たされる中、亡き友の妹と

の間に愛が芽生える。それを

解明を願っていた当事者との

間で思いにすれが生じてい

た。とりわけ、亡くなった学

生の兄で、報告書をまとめた

故石岡繁雄さん〔元鈴鹿高専

教授〕60年に88歳で死去)は、

井上は目を通しても、すぐ小説

の材料になる感じ、東京の

自宅で関係者らと会って熱心

に話を聞いた。登山小説「氷

壁」の新聞連載がスタートす

るのは、その数カ月後のこと

だ。

主人公は登山家の魚津恭一

大。親友2人で前穂高岳の

岩場に挑んでいる最中、ナイ

ロンザイルが切れ、友を失

う。切断の原因を巡り、いろ

んな憶測が飛び交って苦境に

立たされる中、亡き友の妹と

の間に愛が芽生える。それを

解明を願っていた当事者との

間で思いにすれが生じてい

た。とりわけ、亡くなった学

生の兄で、報告書をまとめた

故石岡繁雄さん〔元鈴鹿高専

教授〕60年に88歳で死去)は、

井上は目を通しても、すぐ小説

の材料になる感じ、東京の

自宅で関係者らと会って熱心

に話を聞いた。登山小説「氷

壁」の新聞連載がスタートす

るのは、その数カ月後のこと

だ。

主人公は登山家の魚津恭一

大。親友2人で前穂高岳の

岩場に挑んでいる最中、ナイ

ロンザイルが切れ、友を失

う。切断の原因を巡り、いろ

んな憶測が飛び交って苦境に

立たされる中、亡き友の妹と

の間に愛が芽生える。それを

解明を願っていた当事者との

間で思いにすれが生じてい

た。とりわけ、亡くなった学

生の兄で、報告書をまとめた

故石岡繁雄さん〔元鈴鹿高専

教授〕60年に88歳で死去)は、

井上は目を通しても、すぐ小説

の材料になる感じ、東京の

自宅で関係者らと会って熱心

に話を聞いた。登山小説「氷

壁」の新聞連載がスタートす

るのは、その数カ月後のこと

だ。

主人公は登山家の魚津恭一

大。親友2人で前穂高岳の

岩場に挑んでいる最中、ナイ

ロンザイルが切れ、友を失

う。切断の原因を巡り、いろ

んな憶測が飛び交って苦境に

立たされる中、亡き友の妹と

の間に愛が芽生える。それを

解明を願っていた当事者との

間で思いにすれが生じてい

た。とりわけ、亡くなった学

生の兄で、報告書をまとめた

故石岡繁雄さん〔元鈴鹿高専

教授〕60年に88歳で死去)は、

井上は目を通しても、すぐ小説

の材料になる感じ、東京の

自宅で関係者らと会って熱心

に話を聞いた。登山小説「氷

壁」の新聞連載がスタートす

るのは、その数カ月後のこと

だ。

主人公は登山家の魚津恭一

大。親友2人で前穂高岳の

岩場に挑んでいる最中、ナイ

ロンザイルが切れ、友を失

う。切断の原因を巡り、いろ

んな憶測が飛び交って苦境に

立たされる中、亡き友の妹と

の間に愛が芽生える。それを

解明を願っていた当事者との

間で思いにすれが生じてい

た。とりわけ、亡くなった学

生の兄で、報告書をまとめた